

がん患者サロン Luana

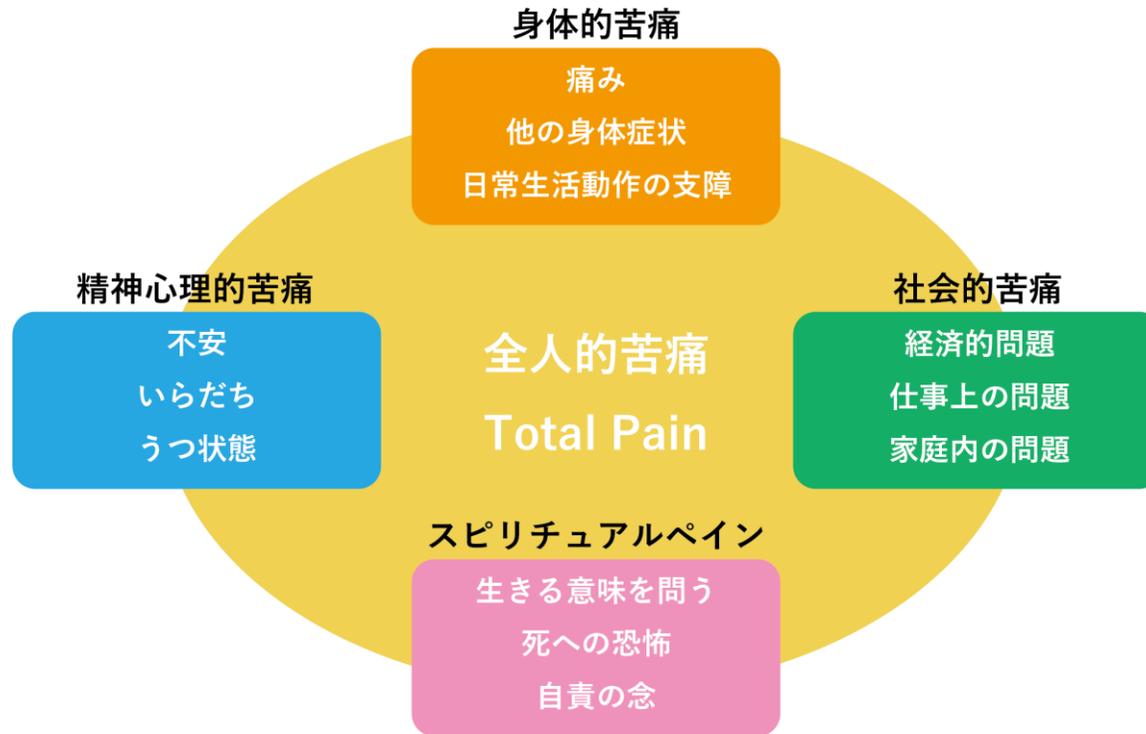
緩和ケアについて



2024.7.26
私立岸和田市民病院
緩和ケア内科 部長
川島正裕



全人的苦痛とは



- 緩和ケアは身体的苦痛のみでなく、患者と家族の様々な苦痛に対処し、QOLを改善することが目的である
- 苦痛を身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルペインに分類し、全人的苦痛として捉える



身体的苦痛

- がん患者の身体症状は、経時的に発症頻度が増し、重複して存在する身体症状が存在しても自発的に訴えないことが多い
- 頻度の高い身体症状として、以下が挙げられる
- 痛み/呼吸困難/倦怠感/口渇/早期腹満感/便秘/食欲低下/不眠など



精神心理的苦痛

- 精神心理的苦痛は、患者の楽しみ、生きる意義、他者との関係性を害し、QOLを低下させ、痛みや他の身体症状を増幅させる
- 身体症状が十分に緩和されていないことは、強い精神心理的苦痛につながる
- 病状の進行に伴い、これらの精神心理的負担は大きくなっていく傾向にある



社会的苦痛

- 社会の中で果たしていた役割を、病気によって果たせない時や、役割が変化した時に社会的苦痛が発生する
- 社会的苦痛として、以下が挙げられる
 - 経済的問題
 - 職業の喪失や変更
 - 患者自身や家族の生活への影響 など



スピリチュアルペイン

- 「自分の存在自体や、その意味を問うことに伴う苦痛」をスピリチュアルペインと呼ぶ
- 人生の意味を問うことは、病気に罹患しなくてもあることだが、病気になり、特に死が目前に迫った際に、その問いが強い苦痛を伴いうる
- スピリチュアルペインとして、以下が挙げられる
 - 死ぬのがこわい
 - 自分の人生に価値があったのか
 - あの時ああしておけばよかった（後悔）
 - 優しくしてもらえない人間ではない（罪責感）
 - なぜ私だけが？ など



全人的苦痛のポイント

- 全人的苦痛を理解することで、患者の苦痛を多面的に捉えることができる
- 全人的苦痛を構成する苦痛は、「強い身体的苦痛が、精神的苦痛を強めている」といったように、相互に影響する
- 正確に分類することにこだわるのではなく、患者の抱えるつらさを全人的苦痛として把握することが重要である



患者さんの気ばかり

- 治療の見通しに関すること
 - 自分の病状がどのような経過をたどるのか知りたかった など
- 生活に関すること
 - 退院したが、少し動いては横になっての生活で家事ができなかった など
- 生き方に関すること
 - これで一生が終わりなのかと、家のこと、生活のことを考えるだけ情けなく思えた など
- 仕事、お金、家族に関すること
- 再発、治療に関すること



様々な場面でのつらさ、気ばかり





治療の選択とQOL

- 治療や療養生活を送る患者にとっての生活の質には肉体的、精神的、社会的、経済的なものすべてが含まれる
- 病気による症状や治療の副作用などによって、治療前と同じようには生活できなくなることがある
- QOLは、自分らしく納得のいく生活の質の維持を目指すという考え方
- 治療法を選ぶときには、治療効果だけでなくQOLを保てるかどうかを考慮していくことも大切

がん情報サービス : https://ganjoho.jp/public/qa_links/dictionary/dic01/modal/quality_of_life.html

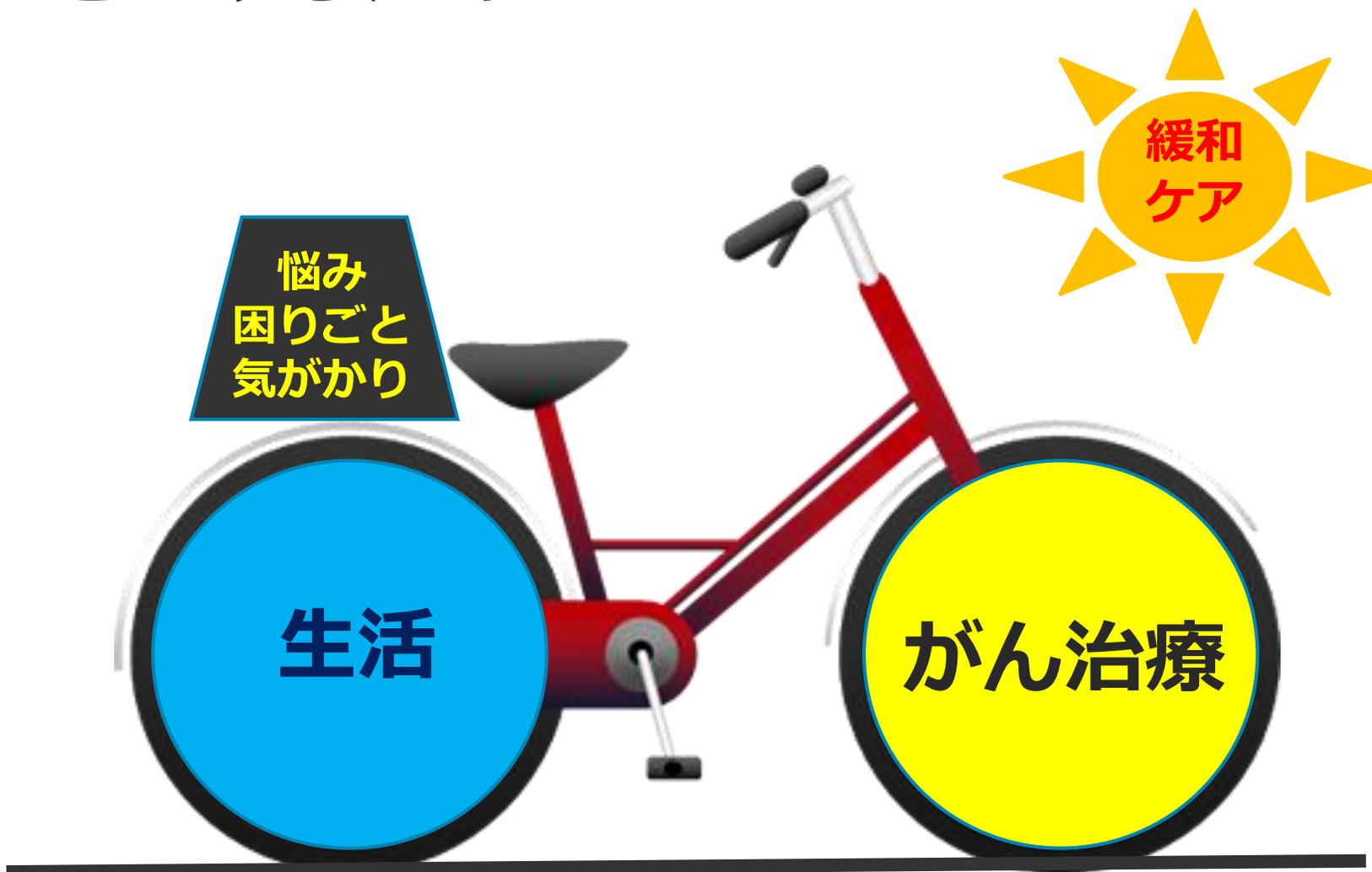


QOLを上げるために



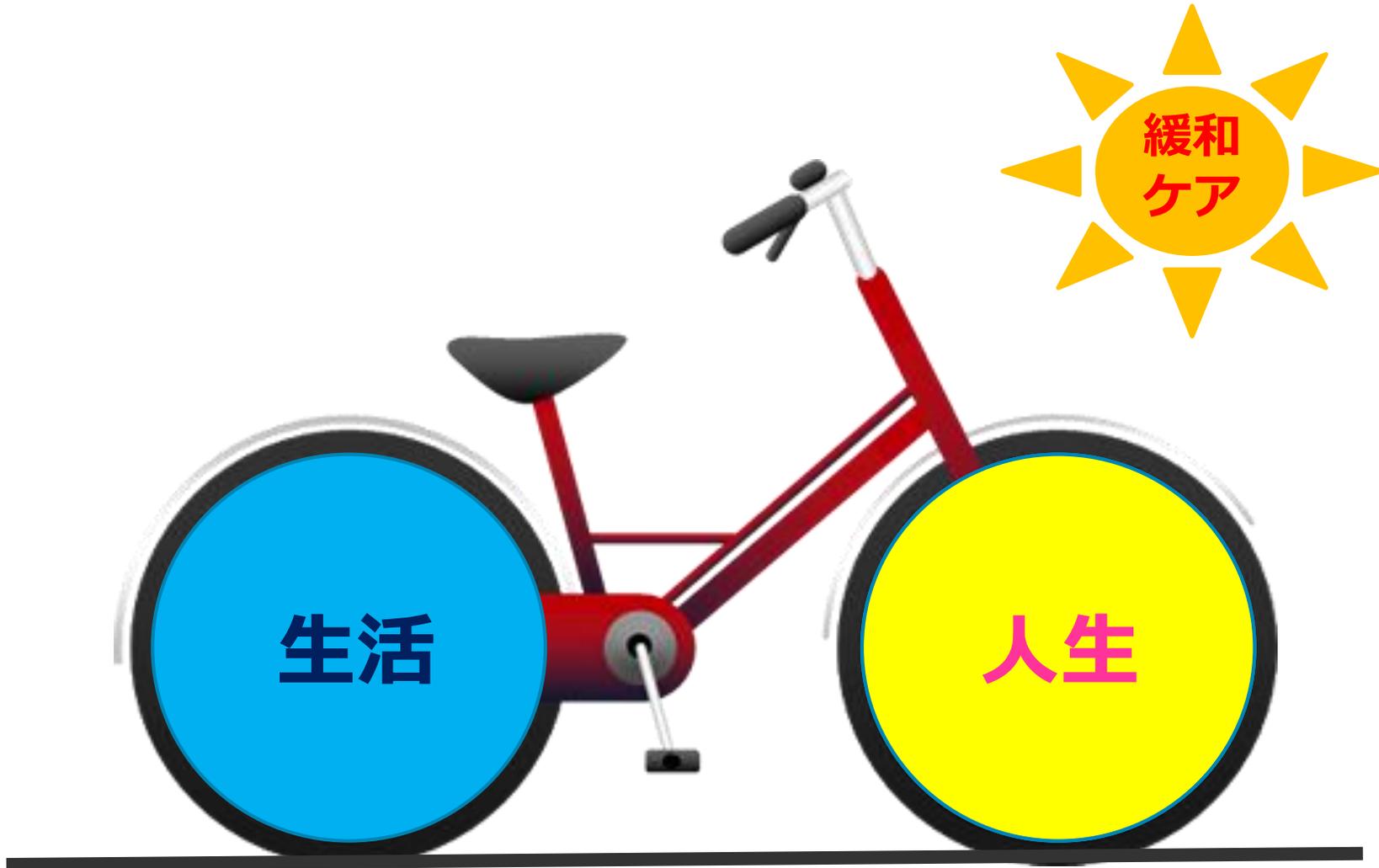


QOLを上げるために





QOLの維持のために



がん患者サロン Luana

あなたらしく過ごすお手伝い



2024.7.26

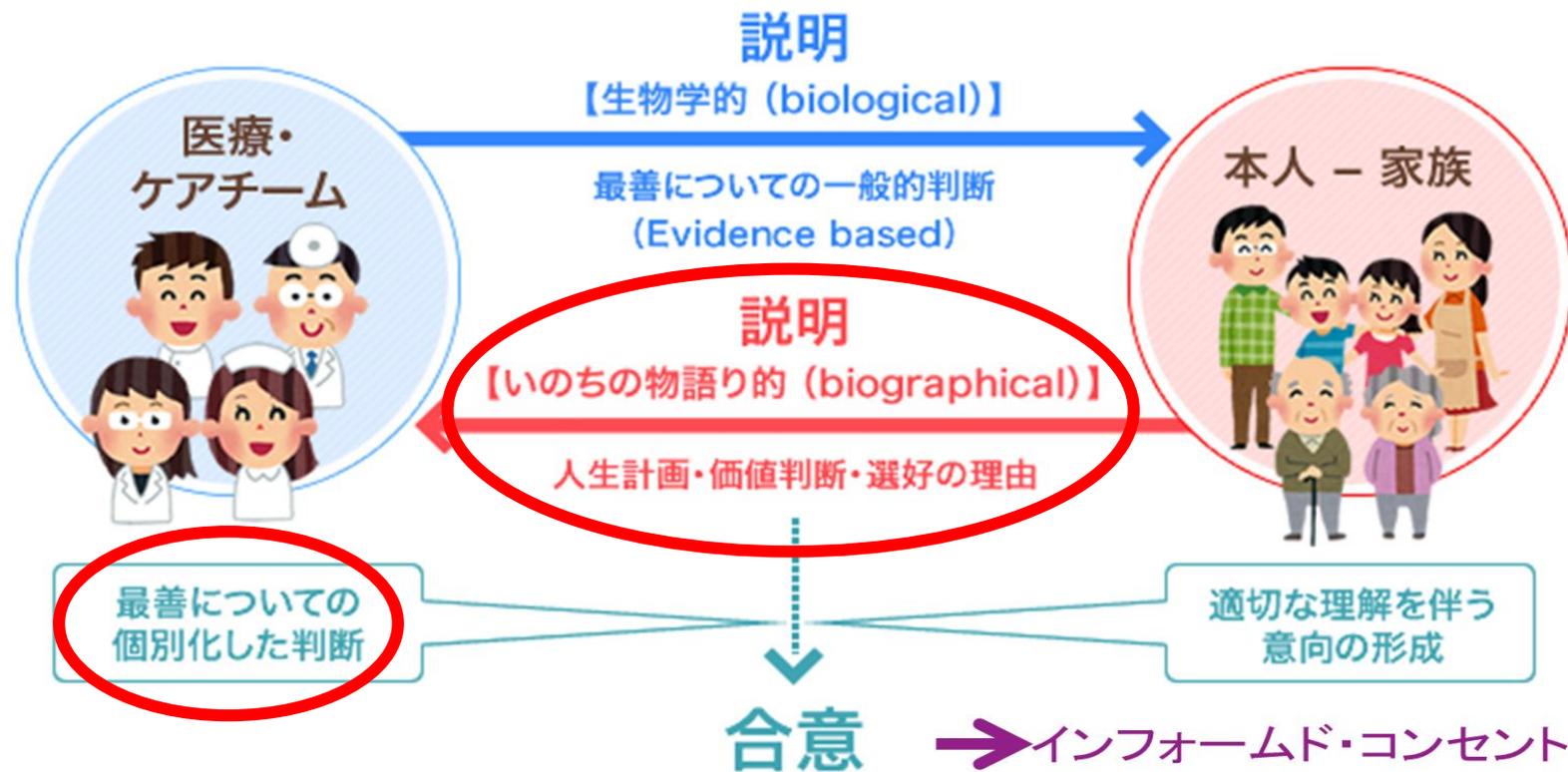
市立岸和田市民病院
外来緩和ケアセンター看護師
伊賀規子

緩和ケアとは

- 身体的苦痛のみでなく、患者と家族の様々な苦痛に対処し、QOL（自分らしく納得のいく生活の質）を改善することが目的

あなたの想いをきかせてください

大切にされていること
を聴かせてください





看護師が関わる患者さん・ご家族への支援



「つなぐ」

- 患者さん・ご家族-医療従事者
- 患者さん-ご家族
- 患者さん・ご家族-社会
- 地域-病院 など

当院の相談窓口

• がん相談支援センター

- どなたでも相談可能：対面・電話・メールなどでの相談も可
- がん相談員（医療ソーシャルワーカー、看護師など）が対応

• がん看護外来

- 当院かかりつけの方対象
- がんの認定・専門看護師が対応
- 2階受付Fにご相談ください

• 緩和ケアチーム

- 病棟、外来の看護師、医師、
薬剤師、理学療法士・作業療法士、栄養士など、
院内の 身近な医療従事者



Q：緩和ケアチームに相談したい時はどうしたらいいの？

A：主治医や看護師に「緩和ケアチームに相談したい」とお伝えください。チームへの依頼のきっかけは、『主治医や看護師の勧めで』という場合が多いですが、『患者さんやご家族からの希望で』という場合も増加しています。

チームのサポートをご希望の場合は、主治医や看護師、がん相談員など身近な医療従事者に遠慮なくお声かけください。



あなたにとっての最善を一緒に考えさせてください

